# ご注文をどうぞ。

杏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ご注文をどうぞ。

【Ｎコード】
Ｎ９０７５Ｙ

【作者名】
杏

【あらすじ】
本人曰く、悠々自適のフリーター生活を送っていた。あの時アレを拾わなければ……。だるがりの主人公が綴る、ありそうだけどありえない生活記録。

## プロローグ（前書き）

小説初心者ですが、暴走したいんです。

※未来編後の設定です

# プロローグ

「はーい、今日もお疲れした～」

今日も定時に上がる。つい最近までバイト終わりに眺めていた夕日も、ここ数日ですっかり拝めなくなった。どこかで鳴いていた虫も、いつの間にか種類が変わっている。

そんな事を考えながら、店の裏に停めてある自転車を取りに歩いていた。いつもと同じ風景の中、いつもと同じ行動をとる。

この後、余計な事に首を突っ込まなければ、明日もいつもと変わらず過ごせたろうに。其れが必然だったとしてもだ。

首を突っ込まない……。この日、以後気を付けるべき課題が増えた。

これは私、「世良　凛」が、ある日街で拾った「猛獣」との日々を綴った記録である。

――――高校卒業後の一年間は自由にフリーター生活を送る、という、私の計画を台無しにしてくれた猛獣との遭遇から書き始めようか。

## プロローグ（後書き）

ラブコメを目指したいんですが……。
読者様からのご注文、お聞かせください。

## P．1　義弟

ＰＭ６：３０

若干の肌寒さと、けだるさを感じながら、自転車を取りに店の裏側へと歩いて行く。

「て、てめぇ、ふざけんじゃねーぞ」

「中坊のくせに……」

「……次会ったらただじゃおかねーからな！」

定番の捨て台詞を吐いた高校生らしき男、三人発見。すぐさま引き返す。

――うわ～、店の裏で喧嘩かよ。

するならもっと別の場所でしてくれればいいのに。店の評判がさがっ

「群れてる奴は何人たりとも……、咬み殺す」

――こ、この言葉は、ひばりん？　ひばりんのコスプレした奴が一人紛れてたよ。

おまけにケンカとか……なりきりすぎ……力入れすぎ……。

三人の不良と一人のコスプレーヤーが気になり、少しだけ覗いてみることにした。

「ちょっと、そこの君たち！　街中で喧嘩とは頂けないな。どこの学校の生徒？」

誰かが呼んだのか、騒ぎが大き過ぎたのか、警察沙汰になってし

まった。警官はひばりんコスプレの少年に話し掛けている。

「並盛中」

コスプレ少年が答えた。

この威圧感といい、警察相手でもキャラを崩さない姿勢といい、ものまねグランプリに出場したら優勝確実なのではないだろうか。

「並盛中……聞いた事がないな。他県の生徒？」

「東京都にある並盛中だよ」

「ちょっと君、ふざけるのも大概に……」

何と言えばいいのだろうか、背筋が凍るとはこの事か？　警官も立ちすくんでいる。

恐る恐るコスプレチャンピオンを覗き見ると、驚く程良く似ている。雲雀恭弥が現実に存在するならば、きっとこの容姿だろう。

……チャンピオンの右拳が紫色に光っている。

……まさか、まさかね。

「君もここで咬み殺してあげるよ」

「……っ！」

口だけをニヤリと動かす。

警官が声にならない叫びを上げた途端、紫色の光、いや炎が、彼愛用のトンファーに灯る。

「あのっ！！」
「っ！？」
「その子私の弟なんです！　厳しく注意しておくので今回は勘弁して下さい！」

警官はコクコクと頷くと、一目散に走り去った。それと同時に、私は地べたに座り込む。

「君、だれ？」

「私の弟ってどういう意味？」

「ちょっと、聞いてるの？」

はっとして顔を上げた。すると、私と少し距離をとった位置に……

……

彼がいた。

「ごっ……ごめんなさい！　余計な事をして！」

「君には一つ借りが出来てしまったよ」
「え……あの、雲雀……恭弥さん？」
「何？」

――やばい、本物か？　本物なのか？
いやいやいやいや、ただのチャンピオンじゃね？　世界に通用するくらいそっくりなチャンピオンじゃね？　さすがに漫画から飛び出して来ちゃうってのはファンタ
「だから、何？」
少し苛立った様子で口を動かしている。この場合、話し掛けられているのは私か？　私なのか？

「あの……なんでここに居るんですか……？」
――あ～！　核心を突いてしまったよ！
彼は先程とは違う表情を見せた。無表情というか、ぽかんとしたというか。

「……わからない」

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9075y/

ご注文をどうぞ。

2011年11月27日04時11分発行